

科目名	精神看護学実習 Psychiatric Nursing Practice		担当教員 (研究室番号)	犬飼さゆり (401) 他		教員への連絡方法 (メールアドレス)	犬飼 : sayuri.inukai@mcn.ac.jp 担当教員 : psy@ml.mcn.ac.jp					
履修年次	3年次 後期	科目 区分	専門科目・広域看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	2(60)	授業 形態	実習	科目等 履修生	否
科目 目的	本科目は、精神疾患を抱える人への支援に必要な知識と技術を基盤とし、精神科領域における看護師の役割を理解して、適切な看護実践ができる能力と姿勢を養うことを目的としている。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身につけている。(技能・表現)										
	関連する DP	F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身につけている。 (技能・表現) G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)										
到達 目標	①治療的コミュニケーションを理解し、患者－看護師関係を構築し、発展していくことができる。 ②プロセスレコードやスーパービジョンを通し、治療的コミュニケーションや自己理解を深める。 ③セルフケア理論を用いた看護過程を展開する。 ④実施した看護を記録し、評価することができる。 ⑤看護の連続体の視点で、患者様を取り巻く地域精神医療について考察できる。 ⑥問題解決に向けた看護過程と対人関係的な看護過程を実践し、患者様を全人的に理解し考察できる。											
成績評価方法 (基準)	実習評価表に基づき、実習内容、提出記録、出席状況により目標到達度を点数化し評価する。											
再試験の有無と 基準等												
教科書	精神看護学概論、精神看護方法Ⅰ・Ⅱで指定した教科書											
参考書等	精神看護エクスペール1～11、中山書店 他											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	精神看護学概論、精神看護方法Ⅰ・Ⅱで学修した知識や技術に加え、新たな文献を用いた自己学習など総動員して実習に臨みます。指導教員や臨床指導者の力も借りながら、精神疾患を抱える人をその人の立場になって理解し、リカバリーを支援していきましょう。											
備考	精神看護方法Ⅱを修得していないと履修できない。											

学 習 内 容

[実習場所]

三重県立こころの医療センター

[実習方法及び内容]

- 精神疾患をもつ患者を対象に、セルフケア理論やストレングスマデルを用いて看護過程を展開する。
 - 第1週
 - ①情報収集
 - ②情報統合：セルフケア理論・ストレングスマデルを用いて情報を図式化し関連づけ、全体像を明らかにする。
 - ③アセスメント
 - ④看護問題の抽出
 - ⑤ケアプラン立案
 - 第2週
 - ①ケアプランの実施
 - ②実習最終日にケアの評価
- 患者－看護師関係を発展させる。
 - ①治療的コミュニケーションを活用し、患者－看護師関係を発展させる。
 - ②患者－看護師関係を基盤としたケアを実践する。
- 入院治療だけでなく、精神障がい者を取り巻く地域精神医療について理解する。
- 自己理解を深める。
実習に伴う自分自身の感情に気づき、プロセスレコード、スーパービジョンなどを通して自己理解を深める。
- 自己学習日(学内日)第1週目 「受け持ち患者の疾患の理解」を学習し提出する。
第2週目 第2回プロセスレコードの振り返りを教員と実施(各教員に面接予約をする)

学 習 課 題

事前学習：①患者－看護師関係の発展プロセス、②セルフケア理論に基づくアセスメント項目、③精神症状のアセスメント項目についてレポートを作成し、実習初日に提出する。

第1週目：自己の振り返りのためにプロセスレコードを書く。
看護過程の統合的アセスメントまで記述し、看護問題を抽出する。

第2週目：自己の振り返りのためにプロセスレコードを書く。
受け持ち患者の個別的なケアプランを立案する。

毎日、実習前に、実施する看護の計画を立て、実習後には実施した看護を記録し、評価する。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。